

目標：「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現

【指標】
 ○国語科において、学習のゴールを意識して計画を立てたり考えたりできる（児童アンケート1学期86.6%、R5 88%）
 ○授業中、問題の解き方や、考えたことが、伝えたい相手に伝わるように、ノートやタブレットに書いている。目標90%（児童アンケート 1学期85.1%、R584.8%）

【具体的方策】
 研修での取組に合わせて
 ○個別最適な学び 主体的に学習する態度を目指して
 ・ゴールを意識できる授業 ・振り返りのある授業
 ・児童がゴールを目指して学びを計画できる授業スタイル
 ○協働的な学び
 ・ICTを使用した対話の活性化 ・自他の違いを認め合える学級風土作り（UDを意識した授業づくり）

【見通し】
 ・単元や授業の課題やゴールを明確にし、児童と共有する授業・振り返りのある授業をしましょう。
 ・対話の活性化のために、ICTを積極的に活用しましょう。
 ・互いに助け合い、認め合い、高め合う人間関係を目指しましょう。

個別最適な学習・協働的な学習

目標：基礎基本・学習内容の定着

【指標】
 ○チャレンジテスト平均正答率 70 →65%（R4 65.8% R5 61.1% R61学期 57.8%）※無回答率0%については CBTのため廃止（R3 9.3% R4 3% R5 0.2% 前期1.7%）
 ○チャレンジテスト正答率50%以下の児童 0%に近づける。

【具体的方策】
 課題や問題文の把握を丁寧に行い、必要な情報を抜き取る練習をさせる。（国語）
 四則計算の反復練習（算数）
 ○ペーシクタイムの継続
 ・朝のペーシクタイムで、おさらい先生を使い、算数（四則計算）、国語（読解）に繰り返し取り組むことで、基礎・基本の学習内容の定着を図る。
 ○各種テストの結果分析
 ・MEXCBTを活用した「チャレンジテスト」や「全校学力学習状況調査」の過去問題に取り組み、苦手な問題を減らす。CBTでは十分に読む時間を確保し、ページ滞在時間を長くさせる。

【見通し】
 ・デジタルドリルを使用し、基礎基本の練習を繰り返しましょう。
 ・MEXCBTやCBTを使い、チャレンジテストの練習をしましょう。
 ・自分の考えを気軽に書く経験を充実させ、無回答を減らしましょう。
 ・文章を読み取る際に、課題を焦点化しての練習を繰り返させましょう。

教務部（主に学力向上・情報）

目標：家庭学習の習慣化と学習内容の充実

【指標】
 ○家庭学習（宿題or自主学習）提出率90%（R4 85% R5 82% R61学期 86%）
 ○家庭学習の質の向上（自分で計画した学習の継続）

【具体的方策】
 ○「家庭学習の手引き」に基づいた指導
 保護者や児童が家庭学習の取り組み方に困った際に活用できるよう、懇談会や個人懇談等で直接説明する機会を設ける。
 ○家庭学習の記録の蓄積
 家庭学習の取組状況やめあてと振り返りを「家庭学習チェックシート」に記入し、自分の学習の現在地が分かるようにする。
 ○強化週間の取組
 家庭への呼びかけを含め、普段以上に力を入れて取り組ませる。

【見通し】
 ・児童と目標の共有（提出率、学習時間など）をしましょう。
 ・「家庭学習の手引き」に基づいた取り組み方や「家庭学習チェックシート」の入力について指導をしましょう。
 ・毎日、学習後に学習内容をチェックシートに記入し、振り返る習慣を身に付けさせましょう。

家庭学習習慣の充実

共生・協働

確かな学力の向上

表現・継続

たくましく生きるための健康や体力づくり

目標：体力づくりの強化

【指標】
 ・体力づくりの取組のより一層の充実
 （前期）前年度の全国平均以上の児童の割合が50%
 握力...53% 50m走...46% ソフトボール投げ...55%
 （本校に課題がある種目）

【具体的方策】
 ○体力づくり強化の取組
 ・体育・健康委員会によるレクの計画と実施をする。
 ・短縄跳びの目標設定し、月2回体育の準備体操に合わせて取り組み、記録をとる。
 ・シャトルランを実施することで、全身持久力の向上を目指す。

【見通し】
 ・短縄跳びの目標を児童と設定し、体育のウォーミングアップにも取り入れましょう。
 ・走力や持久力を向上させるために体育の授業の初めに「体力づくりの運動」を取り入れましょう。

目標：平日のメディア時間の短縮

【指標】
 ・児童アンケート「ゲームをしたりテレビを見たりしている時間が2時間以内」80%以上（R5前期72% R5後期 74% R6 1学期66%）
 ・児童アンケート「ゲームをしたり見たりしている時間が4時間以上」0%（ R5前期 11%、R5後期15%、R6 1学期20%）

【具体的方策】
 ○アウトメディア読書週間の計画と実施
 ・アウトメディア読書デーを月2回行い、定期的に繰り返し指導・生徒指導部だより、学級通信、スマホ安全教室等を通して、定期的に保護者への啓蒙する
 ・教務と連携し、平日の読書の時間を増加するよう指導する

【見通し】
 ・アウトメディア読書デーには、図書室や家庭の本を読む時間を持ち、メディアの削減を目指しましょう。
 ・規則正しい生活について、家庭の協力が得られるよう指導部だよりで啓蒙するとともに、定期的に呼びかけを行いましょ。

読書習慣の定着（豊かな人間性の向上）

目標：国語教科書に紹介されている本を読む児童の増加

【指標】
 ○読書通帳並行読書ページの記録
 低 8冊・中 6冊・高 4冊分
 ○読書通帳図書室貸出および家の本のページの記録
 0冊の人が0%

【具体的方策】
 ○司書と連携した図書館活用促進
 ・並行読書週間（年に1回 単元は担任が決めて、司書へ伝える・読書通帳の発行）
 ・学習や学級に合わせた本の紹介
 ・委員会活動・読書週間の取組における連携
 ・読書量の可視化＝カードの活用、読書の本など
 ・図書の紹介や読み聞かせなどをペーシクタイムや読書の時間に積極的に行う。
 ○読む力を付ける活動の充実
 ・国語～図書室活用や読書に親しむ単元の充実
 ・国語の教科書に紹介されている図書の教室配置

【見通し】
 ・学習に合わせて教科書に紹介されている本を読む指導や学校司書と連携した指導をしましょう。
 ・朝の時間（ペーシクタイムや読書の時間）に本の紹介や読み聞かせなどを積極的に取り入れましょう。